현길언

1964 年、全羅北道金堤出生。1988 年、梨花女子大仏文科卒業。1990 年『東亜日報』新春文芸に短編「광장으로 가는 길」が当選。
1993 年に小説家김소진と結婚して、息子 1 人をもうけるが先立たれる。
2005 年釜山大学仏文科박형섭教授と再婚。
現在、東亜大学人文科学学部、文芸創作科教授として在職中。

小説集　『이야기, 떨어지는 가면』『밤은 말한다』『동행』『당신의 물고기』『버스, 지나가다』『네 마음의 푸른 눈』『곡두』
中編小説　「아주 사소한 중독」
長編小説　『행복』『춘하추동』『내 남자의 책』
散文集　『하찮음에 관하여』『지금 살아있다는 것은』『나를 미치게 하는 것들』他多数

「記憶の考古学—私のメキシコ叔父さん」

登場人物

- 主人公: 하 선생 大学の先生(フランス語？)
- カン先生:韓国文芸創作学会の学会長
- チュナ叔母:하춘아 往年の歌手
- メキシコ叔父さん:천호운 エネケン アコーディオン奏者 母国語を話せない

構成の特徴

- 11 節で構成されている。
- すべての節がワンパラグラフで書かれている。
- 現在と過去の節が交互になっている。

① 彼を探そう

メキシコシチーのウナム大学で韓国語を教えている J 先生からのメールが来た。メキシコとキューバで韓国文学シンポジウムを共同開催しようという提案だった。2000 年にできた韓国文芸創作学会の学会長カン教授は、まえに行ったからと乗り気でない。

② 9 歳の記憶

私の父には姉が四人いて、7 歳で母が亡くなったあとは、夏休みは叔母の家で過ごした。チュナ叔母の家は釜山アミ洞の迷路のような골목にあった。9 歳の夏休みが最後で、そのあとはチナ叔母宅で過ごした。

（106 頁 3 行目） 迷路のてっぺんまで登ったら何が見えるのか、わからなかった。

チュナ叔母は、魔女のような髪型をしており、怒鳴ったらガラスが割れる声の持ち主だった。ある日、路地に赤いアコーディオンを下げた男性があらわれ、のっしのっしと登っていった。

③幼年の記憶

メキシコからの知らせは忘れていたある記憶を思い起こさせ、私はメキシコ行に乗り気になるが、10 年前にメキシコで学会を開いたカン教授は乗り気でない。

④メキシコ叔父さん

その男性はチュナ叔母のお客さんで、いっしょに暮らし始めた。叔母はサボテンを屋根の上に載せて大切にした。夏休みが終わっても父は迎えにこなかった。

⑤ボデギタでモヒトを

私はカン先生とボデギタで待ち合わせモヒトを飲みながら会話をする。スクリーンでは「チコとリタ」が流れて、それを見ながら私はヒジェとの最後の情事を思いだす。ヨム詩人の噂。カン教授はしだいにメキシコに行く気になり、あちらで会う人がいると言いだした。

⑥ウサギ婆さん

母の死にまつわるウサギの思い出。そしてウサギ婆さんの死。メキシコ叔父さんは、ウサギ婆さんの家に引っ越した。チュナ叔母は赤い口紅を塗って「ベサメムーチョ」を歌った。秋が来て冬が来ても父から連絡はなかった。

⑦赤いアコーディオン

私は 7 年間同棲していたフィジェと別れた欠落感に苦しむ。チュナ叔母は私がフランスにいるときすい臓がんで突然亡くなった。メキシコにいく準備をしていたところだったという。カン先生のエニケン朴氏の話を思いだし、私はメキシコで叔父さんをさがそうと考えながら赤いアコーディオンのキーに指をおく。

⑧往年の歌手

秋夕の前日、チュナ叔母とメキシコ叔父さんに連れられていったイベント会場で、私はチュナ叔母がむかし歌手だったことを知る。路地の壁には二人のラブストーリーが落書きされたが、冬休みがはじまる直前、父が私を迎えにきたので、結末は知らない。

⑨**エネケン**

カン先生がしてくれたエネケン朴氏の話は、私をいっそうメキシコ叔父さんを探す気にさせた。オフィステルにもどった私はアコーディオンを胸にかけ、叔父さんが肩車をしてくれた日と蝶々の曲を思い出した。

****

エネケン henequen

エネケンはリュウゼツランの一種である。中米原産。ヘネケンとも呼ばれているが、スペイン語圏で H を発音しないことから「エネケン」と呼ばれる。ロープに使う繊維がとれる。19 世紀後半、米国の農機具が小麦自動結束機を開発し、エネケンを部品として採用したため大量に買い占められた。20 世紀の初めまで、エネケンはメキシコ輸出部門でコーヒーについで高い輸出利益をもたらした商品作物であった。一方、最大で 1000 軒以上を数えたエネケンのプランテーションでは小作人は奴隷同

然に酷使される悲劇が起きた。なかでも 1905 年に売られてきた韓国人 1031 名は契約通り 4 年後に解放を望んだがかなわず、多くが異国で悲惨な死を迎えた。負債奴隷の身分を逃れた移民者のうち 288 名が 1921 年にキューバにわたり、現在、ハバナ等を中心に 1 世から 4 世 700 名が住んでいる。彼らはエネケンと呼ばれている。

****

蝶々（野村秋足作詞／スペイン民謡）

ちょうちょう　ちょうちょう　　菜の葉に　とまれ
菜の葉に　あいたら　　桜にとまれ
桜の花の　　花から花へ
とまれよ　遊べ　　遊べよ　とまれ

나비야 나비야　　이리날아오너라

노랑나비 흰나비　　춤을추며 오너라

봄바람에 꽃잎도　　방긋방긋 웃으며

참새도 짹짹짹　　노래하며 춤춘다

⑩路地のてっぺん

路地の子供たちをつれてメキシコ叔父さんは路地のてっぺんまで登った。韓国語を知らないメキシコ叔父さんはいつも黙りこくっているが子供たちはいい人間だと知っていた。てっぺんには小さな白い仏像が数百もあり、肩車をしてもらって私は初めて海を見た。ときどき私はそこに一人で行った。メキシコ叔父さんに会い、蝶々を教えてもらった。冬、私はそこを離れた。

⑪記憶の考古学

J 先生から送ってきたエネケンのリストにメキシコ叔父さんの姓を持つ人はいなかった。あちらに行って何を話そうと考えて、私はあるタイトルを書いてみた。「記憶の考古学—私のメキシコ叔父さん」

感想：創作学科の先生らしい作品